

## 平成22年度 第1回二宮町ごみ減量化推進協議会 会議録

日時：平成22年6月25日(木)

午前10時～午前11時50分

場所：二宮町役場2階公室

出席者：露木委員 / 工藤委員 / 浅田委員 / 相原委員 / 山田委員

町長

事務局：野谷環境部長 / 筑紫生活環境課長 / 西岡環境政策班長 / 石原主任主事 /

松本主事補

傍聴者：1名

### 1. 開会

### 2. あいさつ

町長より

3月末に広域復帰の覚書を締結した。再度協定を結ぶという詰めが残っているが、枠組みに入れていただける方向性である。ごみ減量はやらなければならない大切な運動で、水一滴を減らす努力が財政を救う。お知恵をいただき進めていきたい。

### 3. 委員の委嘱等について

- ・委員の委嘱
- ・委員の自己紹介

### 4. 議題

生活環境課長より(会長選出後は会長により議事進行)

- (1)会長、副会長の選出
- (2)二宮町の廃棄物処理の現状について
- (3)ごみの減量化について
- (4)今後のスケジュールについて

#### (1) 会長、副会長の選出

※委員の互選により、会長露木委員、副会長工藤委員となった。

## (2) 二宮町の廃棄物処理の現状について

### 『環境部長より説明』

最大の問題である広域復帰は、7月から職員を平塚市に派遣し、二宮町が主体となって1市2町の実施計画を修正する。また積替施設は現在簡易の施設を暫定的に使用しており、安全な外部搬出のために必要な新施設を現在造成中である。来年夏に完成予定で、広域復帰後も使用する。可燃ごみの減量は剪定枝分別収集、事業系ごみ袋導入、水切りネット配布など、積極的に取り組んでいるがまだ進める必要があり、皆様のお知恵をお借りしたい。

### 『事務局から資料2-1、2-2、2-3、2-4、2-5、2-6の説明』

#### 【意見・質問等】

委員：先日水が底にたまった指定ごみ袋を見た。底に穴のあいた袋を作り、水を切らないと、下から出てしまうようにしてはどうか。コストが高くなるかもしれないが。

事務局：生ごみを一度レジ袋に入れてから指定の袋にいれる人がいる。指定ごみ袋に穴をあけても問題は解決しないのではないかと。

委員：気がつかなかった。確かに指定ごみ袋に穴をあけても解決しない。

事務局：町では水分対策として昨年水切りネットを配布した。8月からは指定ごみ袋を購入すると、10枚入りのネットがついてくるようなキャンペーンを行う。

委員：指定ごみ袋を買くと、ついてくるのか。

事務局：強制的ではなく、いるかいないか聞いて渡すことになっている。

委員：値段には含まれるのか？

事務局：入っていない。町が負担する。

委員：難しいことは浸透しないが、そういう方法なら水分は相当削れると思う。

事務局：水分が多いごみは、処理先の焼却炉にとっても厄介な存在となってしまう。町としては含水率を少しでも下げたい。

## (3) ごみの減量化について

### 『事務局から資料3-1、3-2、3-3の説明』

#### 【意見・質問等】

会長：過去の提言等から町が対応した部分も含め、協議会でこの2年間どういったことを中心に検討し、町への提言としてまとめていくべきか、ご意見をいただきたい。

委員：事業系のごみ袋が黄色なのは知っているが、収集方法は家庭のごみと一緒にか？

事務局：色は異なるが、家庭のごみと同じ日に同じように収集する。

委員：袋の値段は高くしているのか？

副会長：高いので、商連の会合などでも不満が出ている。

事務局：事業活動に伴って出るごみは、すべて黄色の専用袋を使用してもらうようにした。店舗と自宅がわかれていると、店舗で出るごみはすべて事業系となる。しかし、自宅と店舗が一緒になっているところなどは難しく、自宅ごみは家庭ごみで出してよい。すると来客時に出したお茶を、自分の家でも飲むとどうなるのかという問題が出てくる。

委員：それは線引きできない。

事務局：非常にむずかしい。あまり細かくやると、事業系について一切集められなくなる。事業者の理解と意識の中でやってもらうしかない。

副会長：二宮は小規模の商店は、自宅と店舗がほとんど一緒になっている。ある程度の実業系のごみが出る場所はともかく、小さい商店だと事業系よりも家庭のごみのほうが圧倒的に多い。店舗で出るのがわずかということもあり、家庭用の袋の中に事業用も入れて出してしまう。事業系の袋が高すぎるのでなおさらである。事業系のごみをきちんとやるなら、ごみ袋の値段を考える必要がある。

事務局：袋の金額は20リットルで家庭用の約3倍、45リットルは4倍以上である。

副会長：事業用の袋の使用率は出ているのか？

事務局：足を運んで見ないといけないが、排出量調査的なものができていない。

会長：使用対象となる事業所は、どのくらいあるのか？

事務局：統計書によれば事業所数は約1,000ある。

会長：その中には家庭と店舗が一緒のところが多々あるということ。たとえば売れ残りの商品などなら、内容から事業系のごみだとわかるものなのか？

事務局：家と店舗が一緒になっているところが多いため、出たごみが家庭のものか事業系のものか、袋の外からはもちろん開けても判断は難しい。北口商店街のごみ置場に、黄色いごみ袋がひとつもなければ、これはおかしい。まだ細かく見られておらず、今後は生活環境課でやっていきたい。他市町村では事業系のごみ処理費用はもっと高額であるが、事業用のごみ袋を使用している事業者にとって公平感もてるようにできていない。中身を調べるなど、あまり厳しくやるとおかしくなるが、このままでは制度が壊れてしまう。お知恵をいただいて変えていきたい。

委員：家庭用で大きい袋のほうが割安なのもおかしい。分別をして水を切って30リットルのところを20リットルの袋で出しているのに。この形態は考える必要がある。

事務局：リットルあたりの比較でいくと、現状では大きな袋ほど得ということになってしまう。前の会のときは是正の提案を受けたが、今修正すると値上げになってしまい、町民との良い関係を壊したくない。

会長：値下げするしかないのでは。

事務局：その場合、広域化の問題がある。現在収集手数料を徴収していない平塚と大磯が今後徴収したとき、広域化を組んでいる状況で二宮だけ手数料が安いというわけにはいかない。どこかであわせる場合、二宮の料金は相当あがる可能性がある。

分別についても同様で、将来的にはあわせなければならない。そういう意味で今は微妙な時期だが、ごみの減量化はどこ自治体でも独自にやっている。町としては広域化を見据えた中での減量化に取り組んでいく。

#### (4) 今後のスケジュールについて

『事務局から資料4の説明』

##### 【意見・質問等】

会 長：2回目の協議会が10月で、その前の7月と9月の勉強会でいろいろ検討し、町の予算に反映させ活かしていただけるような提案をするということだった。次回7月の勉強会に向けて、今日提案のあった取り組むべき課題の中から、どういったことを資料として事務局に用意してもらうか、ご意見いただきたい。

事務局：全部ということでもかまわないが、いくつか重点事項を決めていただきたい。逆にこれで全部とは思っておらず、他にご意見があれば増やしていただきたい。

委 員：以前分別収集したビンなどの処理先を見学に行ったが、今は当時より進んでいると思うので、どうなっているか興味がある。二宮のものは今どうなっているか？

事務局：分別した品目の処理先すべてに行くのは難しいこともあり、次回品目ごとの処理状況について、紙やパワーポイントで説明する。

委 員：私は水分ひとしぼりがネックだという気がする。水分を減らせば、処理費用が下がって節税になるし、収集業者の仕事も楽になる。ゼロにするわけにはいかないが、どうしたら30%くらいにできるか考えたい。

委 員：それがいちばん簡単でいいが、浸透させる方法が難しい。

会 長：理論的には皆わかっている。具体的にどうしたらよいかを提案できれば。

委 員：方法を発表できたらいい。うちでは大きめのカップ麺の容器を加工したもので水を切っている。他にもお茶ガラを絞るとけっこう水が出ることなど、小さいことも有効なので、広報に掲載すれば良いのではないか。

委 員：広報をいかに皆が読んでいないかが問題になる。回覧板が良いかもしれない。

会 長：回覧板は見て流れてしまう。回すと手元に何も残らない。そのときわかったつもりで忘れるケースが多く定着しにくい。

委 員：広報も読まない、回覧板だと定着しない。ではどうしたらよいか？

会 長：そこをどうしたらよいか考えなければ。

委 員：「努力したらこういういいことがある」というのがないのも気になる。協力している人と、そうでない人の差が激しい。ネットも努力した人にあげたら良いのでは。

委 員：努力した人がわかればいいが、わからない。変なものを入れないよう袋に名前を書いてごみを出し、責任をもたせたこともあったが、プライバシーの問題もある。

事務局：大多数の方に協力してもらえるものでやっていく必要がある。

委員：いちばん大事なのは水分。どういう方法なら皆さんに協力してもらえるか考えてい。あまり難しいことを提案してもやってもらえないので、簡単な方法を。

会長：各世帯、各個人が具体的に取り組みやすい方法が何なのかを議論の中心とし、それを全世帯に普及させる方法まで考えて、今年はどうしようというものができたら、まずやってみて反応を見たい。

委員：水分の減量について、大きくわかりやすくごみのスケジュール表などに書いたらどうか？今日は何の収集かわかるように、みんな見えるところに貼るので。

事務局：ガイドにも書いてあるが、だんだん見なくなり浸透させるのは難しい。

副会長：うちでは毎晩妻が、生ごみを電動の処理機に入れる。朝になるとからからに乾燥しており、3～4日で処理器がいっぱいになったら、収集に出したり庭の植木にまく。生ごみ処理機導入の徹底で、水分の問題が大きく改革できるのではないか？

会長：スペースがなくてもおけるのか？

副会長：うちのものはそれほど大きくない。台所の横においている。

会長：周辺には臭気などはないのか？

副会長：ない。ごみを入れスイッチを入れておけば、後で引き出しに処理物が入っている。

委員：電気代はどうか？

副会長：それは考えたことがない。

委員：そこは気になる。CO<sub>2</sub>を削減しようといっているところに、毎日使うものなので。

会長：町で補助金が出る処理機の機種は決まっているか？1台いくらぐらいか？

事務局：機種は決まっていない。価格帯は幅広いが5～6万くらい。

会長：耐用年数はどのくらいか？

事務局：5年とか、もてば10年ぐらいは。

副会長：うちは10年近く使っている。

会長：町は、生ごみを自家処理して収集に出さない世帯の数や割合を、把握しているか？

事務局：それはわからない。コンポストも含めた生ごみ処理機の補助件数からいくと、全世帯の約12%に補助金を交付している。約1,500件ということになるが、実際に全て稼働しているかは不明で、挫折したケースもあると考えられる。

委員：とくにコンポストは挫折が多そうである。

会長：電動型生ごみ処理機は、簡単に減量できて臭いもなく良いと思う。コンポストはうちも使っているが、臭い、虫、処理に時間がかかるなど問題が多い。いっぱいになったとき移動するスペースも必要で使いにくい。

事務局：次回は分別徹底方法の再調査、水の一絞り、生ごみ処理機、廃食油についての他市町村の状況も勉強材料として用意したい。

## 5. 閉会